さくら「ほね」通信

夏号
2023.7

本格的な夏が近づいてきました。昨年同様に暑い夏になるのでしょうか？心配です。
夏前のつかの間の心地よい季節に外出、旅行や、運動など楽しめたのではないかと思います。

ほね通信４年目の夏号のテーマは「骨粗鬆症と歯」です。

＊＊

あなたの歯は大丈夫ですか？

骨粗鬆症の治療開始時や治療薬が変更になる時に先生から
「歯は今どんな状況ですか？」
「定期的に歯科でメンテナンス（チェック）していますか？」
「歯周病や抜歯の予定はありますか？」
などの質問を聞かれたことがあると思います。

治療薬によっては「顎骨壊死」との関連が報告されています。

この副作用に関する問題が報告されてからまだ歴史が浅く、十分なデータがないため、根拠に基づいた明確なガイドラインや対策などが示されていません。例えば「抜歯やインプラント手術の時は治療薬の**休薬**を歯科で薦められることがあります。
休薬が必ずしも発症予防になるという医学的根拠もないため、**休薬によって骨粗鬆症の疾患が進行し骨折リスクが高まる危険性と合わせて考えていくことが必要です。（参考：顎骨壊死検討委員会ポジションペーパー2016）**
骨粗鬆症により骨折しやすい部位は背骨（脊椎椎体）や脚の付け根（大腿骨近位部）で、この２つは寝たきりになる可能性も高く、今後の日常生活に与える影響が大きくなります。

歯の定期チエックは大丈夫ですか？

「顎骨壊死」の誘因として考えられているのは下記のような点が報告されています。

- 骨への侵襲的歯科治療（抜歯、インプラント埋入、根尖あるいは歯科外科手術など）
- 不適合な入れ歯、過大に噛みしめる力（強い歯ぎしり等）
- 口腔衛生状態の不良、歯周病、歯肉膿瘍（膿がたまる）
- 根尖性歯周炎などの炎症性疾患

（歯の内部に多数の細菌がいて歯根の先端に炎症が起こり、膿が溜まり治療が難しい疾患）

骨粗鬆症のお薬の中でも、 顎骨壊死・顎骨骨髄炎などの副作用が報告されているのは一部のお薬です。飲み薬だけでなく、注射のお薬もあります。

骨粗鬆症はお薬での治療によって骨折のリスクが約 50%減少すると言われていますので、ご自身の判断で服用を止めたりせず、必ず医師にご相談をお願いします。

さて、どんな骨粗鬆症の薬で報告されているのでしょう？

＜副作用が報告されている薬の種類＞

ビスフォスフォネート製剤（ＢＰ剤）

内服薬：ボナロン、フォサマック、アクトネル、ベネット、ボノテオ、リカルボン、

注射剤：ボンビバ、リクラスト

ヒト型抗 RANKL モノクローナル抗体製剤

注射薬：プラリア、ランマーク

＜副作用が起こらないようにするには＞

顎骨壊死の副作用は細菌感染によっておこるため、**口内を清潔に保っておくこと**が大切です。一度顎骨壊死が起こってしまうと治療に長い時間がかかり、外科手術での対応が必要な場合もあります。　抜歯以外にも虫歯の放置による顎骨への歯性感染なども考えられるため、**定期的に歯科検診を受けて口内環境をチェックして**副作用が起こるリスクを避けましょう。

死ぬまで自分の歯で食事ができるように、また**骨粗鬆症治療が安心して受けられるよう**に歯科のチェックをお願いします。

当院では「かかりつけ歯科医」と連携をとりながら治療をおこなっております。ご安心ください。お困りの時は豊泉先生にご相談ください。

【編集後記】

今回は**「骨粗鬆症と歯」**についてのテーマでした。歯は日常生活で**誤嚥性肺炎の予防、認知症の予防**など健康上密接な関係があります。普段からしっかりと口腔内のチェックを心がけて暑い夏を乗り越え、健康で過ごしましょう。

骨粗鬆症リエゾンマネージャー　堀田智恵子